



新しいまちづくりに向けて

川越市長 舟橋 功一

市民の皆様、あけましておめでとうございます。皆様には、輝かしい平成二十年の新春を健やかに迎えのこととお喜び申し上げます。

また、日ごろから市政に対し、温かいご支援とご協力をいただいておりますことに、心からお礼を申し上げます。

昨年は、さまざまな方が川越を訪れた年でした。三月には、天皇、皇后両陛下とスウェーデン国王、王妃両陛下が本市を訪れ、一番街の町並み・市立美術館・喜多院を視察されました。当日は、多くの市民の皆様からご歓迎・ご協力をいただき、ありがとうございました。五月には、本市が観光振興に功績があったとして、宮崎市から「岩切章太郎賞」を頂きました。同賞の選考委員として本市を訪れた放送作家の永六輔さんや作曲家の服部克久さんから、古きよき日本の風情が川越に残っている点を評価していただきました。

本市には、年間約五百五十万人の観光客が訪れます。こ

れだけの方が訪れるのは、生活に根づいた本物の風情が川越に今も息づいていることに魅力を感じられるからではないでしょうか。今、注目されている地方自治体は、その規模ではなく、まちの個性の輝き故だと思います。国内外から注目され、評価を受けることは、本市の誇りであり、まちとして発展する可能性を秘めている表れです。

今後、第三次川越市総合計画に掲げる「ひと、まち、未来、みんなでつくる いきいき川越」をまちづくりの目標として、さまざまな施策を展開してまいります。

それでは、本年実施を予定している主な事業などにつきまして、その概要を述べさせていただきます。

市民参加と協働の推進

地域にふさわしいまちづくりや、子育て・環境保全・防災・防犯などの地域の課題にきめ細かく対応するためには、市民の皆様と市が協力しながら取り組む視点が重要で



す。本年は、市政への市民参加を進めるための条例と地域での協働のあり方に関する指針について、市民の皆様と共に検討してまいります。

昨年は、東洋大学・東京国際大学・東邦音楽大学・尚美学園大学との間で、市と市内大学との連携に関する基本協定を締結いたしました。お互いの持つ知識・技術・情報を活用しながら、環境保全・産業観光・人材育成・教育・文化など幅広い分野で、事業を実施してまいります。

健全で効率的な行財政運営の推進

厳しい財政状況の下、健全な財政運営を図る必要があります。納税者の利便性と収納率を向上するため、市税の口座振替を推進するとともに、収納窓口の時間延長やコンビニエンスストアでの市税納付にも取り組んでまいります。

公有地の有効活用を図るため、十分に活用されていない場合には、貸し付けや処分を進めるなど、資産の適正な管理・運用に努めてまいります。

昭和四十年代から五十年代に建設された公共施設は、今後二十年の間に多くが更新の時期を迎えます。これらの施設を計画的かつ効率的に整備するため、社会資本整備に係る指針を策定してまいります。

市庁舎は、建築から三十五年が経過し、老朽化が進行するとともに、業務の拡大に伴う狭あい化も問題となつていきます。また、大規模な地震に対応するための防災拠点と

しての機能を発揮することも求められていることから、市庁舎の川越駅西口への移転について具体的な検討を早急に進めてまいります。

健康でいきいきと暮らせるまち

偏った食生活や運動不足などの不健康な生活習慣は、糖尿病・高血圧症などの生活習慣病を引き起こします。また、国民全体の医療費のうち、三分の一を生活習慣病関連が占めているといわれています。本市では四月から、国民健康保険事業において、四十歳から七十四歳の方を対象とした特定健康診査・特定保健指導を実施し、生活習慣病の発症や重症化の予防に努めてまいります。

核家族化や女性の就労が進み、子育てへの支援がますます重要となります。親子の交流の場や育児相談を受け付ける、地域子育て支援センターの充実に努めてまいります。また、病気の回復期にある子どもを預かる病後児保育事業を新たに実施し、安心して就労できる環境の整備に努めてまいります。

市民の皆様が健康で生き生きと安心して暮らせる地域社会の実現に向け、相談支援体制など保健・医療・福祉の各サービスの充実に努めるとともに、市民の皆様による助け合い・支え合いの地域福祉活動を支援してまいります。

高齢化が進む中で、七十五歳以上の方と六十五歳以上で一定の障害があると認定を受けた方に必要な医療を確保するため、四月から後期高齢者医療制度が始まります。市民の皆様と同制度について、ご理解をいただくとともに、安心して医療が受けられるよう、円滑な導入に努めてまいります。